災害時に酪農家情報共有　頭数や発電機有無
幕別圏４ＪＡ　設備の貸与支援にも

2020年1月17日

地震などの災害時に備え、幕別町内の酪農家の経営データを、町や酪農家が所属する４ＪＡ（幕別町、さつない、忠類、帯広大正）で共有する仕組みが整備された。共有するのは飼養頭数、生乳の出荷先、発電機の所有状況など。データは毎年更新し、緊急時の乳牛の二次被害防止につなげる。

ゆとりみらい21推進協議会（会長・大串邦彦ＪＡ幕別町参事）が企画した。同推進協は町、４ＪＡ、町農業委員会、十勝農業改良普及センターなどで構成。複数のＪＡが管轄する町内の特殊事情を勘案し、農業関連機関の連携・調整を担っている。

町内では2018年９月の胆振東部地震に伴うブラックアウト（大規模停電）で、一部の酪農家が生乳廃棄を余儀なくされた。これを受け推進協の畜産振興対策部会では、同年12月から４ＪＡの組合員に対し、災害対策状況について聞き取り調査を進めてきた。

４ＪＡが共有するのは「災害時における経営支援データ」。各酪農家の（１）乳用牛など飼養頭数（２）搾乳・集荷回数（３）搾乳方法やバルク容量（４）発電機や受電設備の有無（５）水源の種類－などで構成する。

これらの情報を基に、例えば大規模停電時の場合は、各ＪＡが発電機を貸し出したり、酪農家同士で発電機を貸与し合うなど、設備を持たない酪農家への支援をスムーズに行えるようにする。

事務局の町農林課は「ブラックアウトでは発電機や水の確保が厳しかった。地域的な断水や停電は今後も起き得る。ＪＡ単位ではなく､町全体で対応する」としている。

◆危機管理対策のマニュアル作成

ゆとりみらい21推進協議会は「災害における酪農危機管理対策マニュアル」を作成した。150部を作成し、各酪農家や関係機関に配布した。

「災害時に想定される酪農被害」「災害による酪農被害の回避・軽減を図る対策」「地域における防災訓練実施」の全３章。

停電時に対応する電力確保計画の作成フロー、ＪＡ内部の災害対策体制などを明示。災害時の被害情報は各戸からＪＡに連絡することを呼び掛けている。

停電や断水への備えと対策を紹介したマニュアル

てん蔵に「雪踏み」機能も　作業予定立てやすく
ネットの営農支援システム　「野良イモ」対策に活用を

2020年1月21日

インターネットを通じて土壌凍結の深さなどを調べられる営農支援システム・てん蔵に、冬場に行う「雪踏み」作業の適期などを確認できる機能が加わった。運営する十勝農協連（山本勝博会長）では、「野良イモ」対策としてシステムの利用を呼び掛けている。

「雪踏み」機能が備わった「てん蔵」

収穫しきれず畑に残ったジャガイモは野良イモとして雑草化するため、土壌凍結を進めて凍死させる必要がある。各農家は厳冬期になると畑をしま状に除雪して地表を露出させる「雪割り」や、ローラーで圧雪する「雪踏み」を行っている。

十勝では雪割りが広く行われているが、トラクターに付けたＶ字の羽根で雪を割るため、越冬中の秋まき小麦を傷つけるリスクがあった。これに対し圧雪する雪踏みは小麦を傷めないため、近年実施する農家が増えている。

「てん蔵」は十勝農協連と日本気象協会（東京）が連携して開発。従来の機能は、雪割りの最適な作業日のみを計算していた。雪踏みが広がっていることから、昨年12月下旬に機能を拡充した。

雪踏みを実施した日を登録すると、現状の凍結と今後の凍結深の予測をそれぞれ確認できる。野良イモを低減させつつ、春作業に影響が出ない凍結深は30センチ程度とされ、十勝農協